



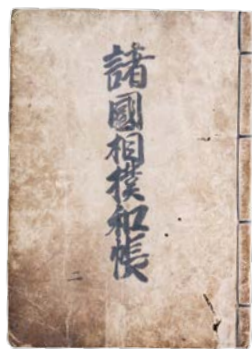
- ①船橋大神宮相撲 平成28年 意富比神社・船橋市宮本
東金へ鷹狩に向かう徳川家康をもてなすために行った、子供相撲が起源と伝わる。毎年10月20日に開催される。かつては力自慢の素人力士が大勢集まり、関東屈指の草相撲といわれ賑わった。
- ②黒虎相撲 平成4年 太田神社・旭市袋
江戸で成功した地元出身の商人らが、安永9年(1780)の鳥居奉納の際、江戸から力士を招いて相撲を奉納したことが始まりという。元来は霜月朔日(11月1日)の行事であるが、現在は11月3日に行っている。
- ③佐原本宿地区相撲関係文書 江戸時代
千葉県立中央博物館大利根分館蔵

- 在郷町として賑わっていた佐原村本宿では、7月の奉納相撲が昭和初期まで行われていた。
- ④盆綱 平成29年 成田市山口地区
8月13~15日の3日間、子供たちが盆綱を曳いて地区の全85軒を回る。盆綱は先祖の乗り物であり、回り終えた綱でかつては土俵を作り相撲をとった。
- ⑤⑥飯沼観世音縁起絵巻(部分)
明暦2年(1656) 飯沼山圓福寺蔵(銚子市)
〔千葉県立中央博物館大利根分館『千葉の力士たち』から転載〕海中から綱で引き上げられた観音像を祀ったという縁起が、17世紀中頃の銚子や仏前での相撲の様子とともに記されている。

雷電錦絵 寛政9年(1797)
成田山靈光館蔵
雲州松江藩のお抱え力士であり、名大関として名を馳せた。



雷電「諸国相撲控帳」(写真) 文化12年(1815) 個人蔵(相撲博物館提供)
雷電の生家に伝わる日記。現役時の寛政元年(1789)から、引退後の文化12年(1815)までの、全国各地を巡った興行記録である。



板番付 天保5年(1834) 個人蔵
東金での興行に際し作られた板製の番付で、屋根は「入」の字型ではなく山型である。展示している興行願い文書と関連する番付で、江戸年寄りとして房総出身力士が見える。



江戸・東京に隣接する房総地方では、商工業の発展に伴う豊かな経済力と、若者層に広まっていた草相撲の人気を背景に、各地で相撲興行が盛んに行われていました。また、江戸で人気を博した大関雷電も、何度も房総で相撲興行をしており、その様子を日記に残しています。

江戸時代の相撲興行は、神社仏閣の修復寄付を募る名目で、勧進相撲が行われていましたが、風紀の乱れを懸念する幕府から度々禁止令が出されま

す。江戸の相撲年寄は、円滑な興行と地方相撲の把握のため、在地の有力者に興行許可書を与え門弟とし、彼らを勧進元とした興行を行っていきます。

こうした相撲興行の際に作られた板番付が、開催場所となった寺社などに多く残されています。そこには参加力士のほかに勧進元や世話人、地方の草力士たちの名前も記されており、地方における第一級の相撲資料といえます。すでに読めなくなっている番付も多く、その記録・保存が急務となっています。

2 房総の相撲興行